

榆陵に月は

(昭和四十七年寮歌)

加藤秀弘君 作歌
矢野哲憲君 作曲

一

榆陵に月は懸れども
星霜深き原始林暗し
藜羹ゆらぐ風有れど
思い分かつたん術も無し

二

天空破る落雷はあれど
そびゆる聳天樹は堂々と
慟哭の声上げらんと
意気揺籃の時は今

三

銀晶ふるう雪原なれども
変らぬ沈黙奇しきかな
黄鶴消えて姿無し
蘇える春まだ遠く

四

鐘の音遠く聞えども
雑踏の声さざめきの
辛夷花咲く黎明よ
石狩の野今何処

五

無尽の星を仰げども
天に無双の北斗星
白亜の城に覚醒し
永遠の生命を誦わなん

六

未明に懸る白き月
夢見し思う北溟の海
憧れ来しは北溟の峰
呼々我前途の行く果は